

## 労働者の安全認識に及ぼす影響因子の抽出・分類化

横浜国立大学 環境情報研究院

熊崎美枝子

産業技術総合研究所 安全科学研究部門

岡田賢, 牧野良次

神奈川県産業技術センター

清水芳忠

産業医科大学

庄司卓郎

The extraction and classification of the influential factors on worker's perception

Mieko Kumasaki, Authors

Yokohama National University

Ken Okada, Ryoji Makino

National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

Yoshitada Shimizu

Kanagawa Industrial Technology Center

Takuro Shoji

University of Occupational and Environmental Health, Japan

キーワード：安全文化，安全風土，労働者の安全認識

Keywords：safety culture, safety climate, workforce's perceptions and attitudes

### 1. はじめに

安全文化や安全風土（safety climate）については多くの定義が存在するが、その多くにおいて安全文化は集団で共有される安全についての信念や考えなどを指し、安全風土は集団の構成員の行動など、安全文化が表出したものとされている。これらの適切な測定，各因子の因果関係は重要な研究テーマであり、構成員の安全や周囲の環境に関する認識はその根幹を成すと考えられている<sup>1)</sup>。組織の安全活動に対する取り組み、上司・同僚との関係、職場環境などが与える労働者の認識は安全文化・風土を構成する極めて重要な要因である。

本報告では、安全に関するインタビュー，テキストデータを分析し、影響因子の抽出・分類化を行った結果を報告する。

### 2. データ取得

安全に関するインタビューでは、あらかじめ質問項目を用意し、インタビューの状況に応じて掘り下げる内容変化させるなど、柔軟かつ臨機応変に対応可能な半構造化面接の形式をとった。インタビュー時に得られた回答は、参加者の同意を得て上で、記録、音声録音し、テキストデータに変換した後、質的データ解析を行った。

安全に関するテキストデータの取得には、ウェブを利用した。ウェブ上に活動を公開している事業所は、公共性の高い事業所（市役所等）、製造業、運輸業が多く、公開された情報の大半は簡潔に整理されたものであり、「従来の問題点」と「取り組みの内容」のみを簡潔に記したものであった。これらの資料から労働者の声を直接入手することは困難であると判断し、労働者

の声をより直接入手する手段として、当初研究計画への追加項目として短文の投稿を共有できるウェブサービス twitter を調査した。調査は「現場」「安全」等の検索語句を利用し抽出されたテキストデータから内容を吟味して「安全衛生活動に対する感想・評価・意見」を抽出した。その際には、単なる挨拶、作業報告(評価を含まない感想),安全について述べられてはいるが、職場の安全とは関係が薄いもの、本や商品・セミナー等の紹介、法律の条文・資格試験の選択肢などは対象としないため除いた。抽出したツイートは定性分析用ソフト Nvivo10 (QRC社)を利用してコーディングを行い、概念生成を行った。

### 3. 結果

これまでのところ、Twitter の分析から 44 項目の概念を作成し、それぞれネガティブ 24 件、ポジティブ 17 件、状況によってポジティブにもネガティブにもなりうるもの 3 件となった。また、これらをさらに分類し 9 つの概念分類を生成した。それぞれ「安全具」「厚労省の取り組み」「安全担当者」「安全行動」「安全活動・社内ルール」「取り巻く人々・価値観の相違」「企業の体質」「現場・労働環境」「“安全”に対する個人の意識・性格・状態・感情」であり、これら概念分類に含まれる要素が、個人の安全対策や安全活動に対する意識に影響を与えたと考えられた。また、これらの分類を労働者本人の関与する項目、組織の関係する項目、(労働者本人以外の)人が関与する項目、労働環境・社会環境など様々な意味で環境と分類できる項目に分けてマッピングしたものが図 1 である。解析により抽出した項目を図のように整理すると、項目間の境界領域に、本来あるべきであろう概念項目が欠落していたため、新たに 8 項目追加し、図中に併せて記載した。なお、これらの追加概念は労働者インタビューにおいて、概念として得られることが確認されている。

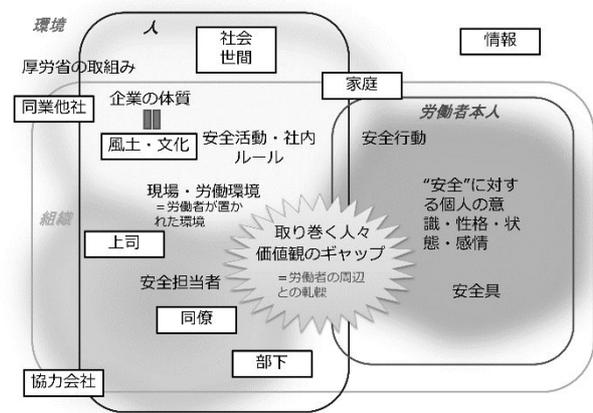


図 1 解析により抽出した項目

### 4. 結論

労働者の安全対策に対する意識の調査のため、安全に関するインタビュー、テキストデータを分析し、影響因子の抽出・分類化を行った。影響因子は 44 項目に概念化され、9 項目に分類できた。それらを労働者本人、組織、環境、(労働者本人以外の)人の観点からマッピングすることで、Twitter 分析では見られなかった 8 項目の概念が得られた。

### 4. 謝辞

本研究は平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金(労働安全衛生総合研究事業 27150101, H27-労働-一般-002)により実施した。

### 参考文献

- 1) Mearns, K. et al. Benchmarking safety climate in hazardous environments: a longitudinal, interorganizational approach. *Risk Analysis*. Vol.21, No.4, 2001, 771-786
- 2) Hystad, SW. et al. Positive organizational behavior and safety in the offshore oil industry: Exploring the determinants of positive safety climate, *The Journal of Positive Psychology*. Vol.9, No.1, 2013, 42-53